

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

肛門疾患（痔核・痔瘻・裂肛）・直腸脱診療ガイドライン 2020 年版 改訂第 2 版

日本大腸肛門病学会ガイドライン委員会（委員長：山名哲郎 JCHO 東京山手メディカルセンター）
南江堂、2020 年 1 月 31 日 改訂第 2 版発行

■1 排膿散及湯、十全大補湯

疾患：

乳児痔瘻

引用など：

- 1) 甲谷孝史、北村享俊、菅沼靖. 男児乳児痔瘻（肛門周囲膿瘍）383 例の検討. *日本小児外科学会雑誌* 1993; 29: 95-102.
- 2) 増本幸二、岡陽一郎、中村晶俊. 乳児肛門周囲膿瘍に対する十全大補湯の長期使用経験. *臨牀と研究* 2010; 87: 1164-7.
- 3) 川原央好. 新生児・早期乳児の肛門周囲膿瘍に対し排膿散及湯を用いた治療研究. *漢方医学* 2012; 36: 288-90.
- 4) Hanada M, Furuya T, Sugito K, et al. Evaluation of the efficacy of incision and drainage versus hainosankyuto treatment for perianal abscess in infants: a multicenter study. *Surgery Today* 2015; 45: 1385-9.
- 5) Inoue M, Sugito K, Ikeda T, et al. Long-term results of seton placement for fistula-in-ano in infants. *Journal of Gastrointestinal Surgery* 2014; 18: 580-3.

有効性に関する記載ないしその要約：

乳児痔瘻の治療の項に、下記の記載がある。

『近年は内服漢方薬（排膿散及湯、十全大補湯）、塩基性線維芽細胞増殖因子による局所治療、硝酸銀腐食療法などの保存的治療の有効性も報告されている。』

■2 排膿散及湯、十全大補湯

疾患:

乳児痔瘻

引用など:

- 1) 大谷俊樹. 小児外科疾患 (便秘・肛門周囲膿瘍) に対する漢方治療. *日本小児東洋医学会誌* 2013; 26: 43-6.
- 2) Kawahara H. Management of perianal abscess with hainosankyuto in neonates and young infants. *Pediatrics International* 2011; 53: 892-6.
- 3) 増本幸二、岡陽一郎、中村晶俊. 乳児肛門周囲膿瘍に対する十全大補湯の長期使用経験. *臨床と研究* 2010; 87: 1164-7.
- 4) Hanada M, Furuya T, Sugito K, et al. Evaluation of the efficacy of incision and drainage versus hainosankyuto treatment for perianal abscess in infants: a multicenter study. *Surgery Today* 2015; 45: 1385-9.

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ3. 乳児痔瘻の治療方針は』の解説の項に、下記の記載がある。

『本邦においては近年、漢方薬内服療法 (排膿散及湯、十全大補湯) が多く報告され、また塩基性線維芽細胞増殖因子による局所治療、硝酸銀腐食療法の報告もあるが、これらの有効性や長期成績は明らかでない。』